

水ときらめき紀の川館に 団体の来館者がありました

流水調整課

H29.02.10

紀の川大堰の水ときらめき紀の川館に、**和歌山市環境政策課**の皆様が見学に来られ、当事務所の流水調整課課長及び他1名の職員が対応しました。

たっぷり時間をかけて館内のご案内や資料のご説明をさせていただき、質問もたくさん頂きました。

参加された方からは「堰の役割や魚道の必要性がよくわかりました。また孫と一緒に来たいと思います。」との嬉しいお声が聞かれました。

団体見学概要

日 時：平成29年2月9日(木)13:30～14:30

会 場：水ときらめき紀の川館

参加人数：28名

団体名：和歌山市 環境政策課 様

1. 紀の川大堰概要説明

流水調整課長が、スライドを用いて紀の川流域のことや紀の川の歴史について説明を行っている様子。

うなづきながら熱心に聞かれました。



2.館内の見学

1階床面の大きな航空写真で、紀の川の流れを辿りながら皆様話が盛り上がっていました。



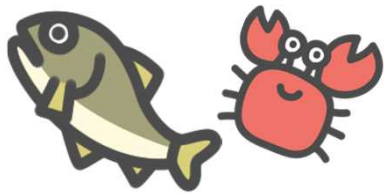
これまでの水害の歴史のパネルを見ながら、熱心に説明を聞かれていました。

3階展望デッキにて、紀の川大堰の関連施設の説明を聞かれている様子。



2階操作室にて、大きなモニターや整然と並ぶ機械類に驚かれていました。

冷たい
川風が身
にしみます



見学も終わり、質問タイムを設けたり、アンケートに記入していただいたりしました。



歴史まめ知識

奈良時代、奈良に「平城京」という都がおかれ、その都に繋がる南海道なんかいどうという道が紀の川の北に沿ってありました。

また、宿泊と物資補給のための駅が設けられ、紀の川の美しい景観が旅人に安らぎをあたえました。その景観は万葉集にも多く歌われています。

神亀元年(724)山部赤人の歌

『若の浦に 潮満ち来れば 潟をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る (巻6-919)』